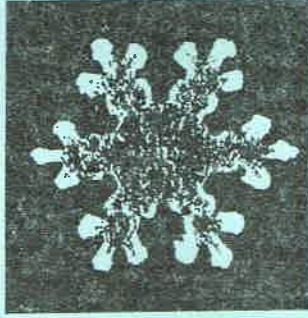
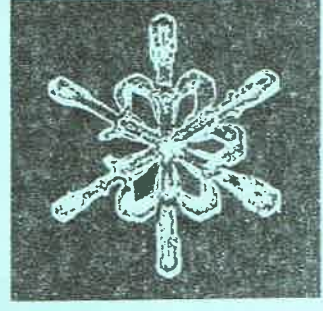


# エゾマツ



特集

冬の自然ウォッチング

No. 31

1995. 1. 20

北海道ボランティアレンジャー協議会

## 目次

1. 巻頭言 追憶の森いろいろ ..... 会長 大友 健 ..... (1)
2. 1995の新春を迎えて ..... 副会長 佐々木 幸夫 ..... (2)
3. 自然観察用品の寄贈 ..... (4)
4. 会員の声 ..... (5)
5. 秋の森の観察会 ..... 武田 洋子 ..... (8)
6. 冬の観察会に参加して ..... 菊池 秀樹 ..... (9)
7. 本の紹介 ..... (10)
8. 特集 冬の自然ウォッチング ..... (11)
9. ことばの解説 ..... (20)
10. 野外救急講座 No.4 ..... 今野 義也 ..... (21)
11. 育成研修、実践セミナー集計結果 ..... (23)
12. 観察会研修会情報 ..... (29)
13. 編集後記 ..... (32)

## 追憶の森いろいろ

会 長 大 友 健

しばれる銀世界を横目に、南国のチョウ、アサギマダラが、華麗にヒラリヒラリと舞う円山動物園の「昆虫館」で、のんびりむせかえる草本花木の薫りに浸りながら、過ぎし日にかかわりをもった、森の数々に追憶の半日をおくった。

美しい自然環境にマッチした、生育おう盛な道央の人工林、厳しい道北の気象条件下で、凍そう害、菌害に打ちのめされ、危機にひんした人工林、そこには枯死木、枯死寸前の木々が緑を失い、一望に見られたあの情景、そこには美しいと感じさせる環境などは、全くなかったように思うのである。

一般的には、森の美しさというと、やはり天然の針葉樹、広葉樹の混交した林分の集団が醸し出す四季と言われているが、針葉樹の生育おう盛な人工林の、整然を感じさせる枝張りは、それなりの美しさがある。

何れにしても、活力ある森林は豊かな林床植生を抱き、種々の生物がすみつく森であることは当然のことである。

美しいという言葉に対して、見苦しいという言葉が森林にないのが幸いでもある。それはなぜだろうか。自然界の美は、環境に大きく左右されることが大きいためと、私は理解をしているのである。

道北の厳しい自然環境に、打ちのめされた、林相改良の手法をとった人工林には、確かに先人の大きな苦勞が多々あったと思う。

私が、その林分の回復のあれこれにかかわり、結果的に取った手法は、自然の森林環境に早く近づけるため、カバ類の生育助長の作業に入り、官学産の英知をいただき、年々環境充実に合わせ、気象害からの立ち直りが見られ、関係者ともども一安心の森は、立派に地域の環境作りをしてくれているだろう。

いろいろ、森林との付き合いがあったが、大きな安らぎを私に与えてくれた、道南のブナの保護林はどうしているだろうか。過日テレビ放映があっただけに、5月の陽光に輝くエメラルドのあの美しい森、会いたい一念が増して来る。

# 1995年の新春を迎えて

副会長（事務局長） 佐々木 幸夫

会員の皆さん、明けましてお目出とうございます。お元気で新年を迎えられたことと思います。

昭和61年12月6日に設立されました協議会も、先輩諸氏を初め会員皆さんのご努力とご協力により、140余名の構成で9年目に入ることが出来ました。

従来、ボランティア・レンジャー育成研修会が7月に行なわれる関係から、協議会の事業年度も8月から翌月の7月でありましたが、より事業推進の円滑化と、他機関・団体との整合性を図るために、昨年総会で4月から翌年の3月に変更されたところであります。

昨年の新年度に入ってから協議会の事業を振り返って見ますと、中核をなす自然観察会は、野幌森林公園をホームグラウンドにさせて頂いている関係から、北海道野幌森林公園事務所主催の自然観察会の案内を主体に、協議会では年2回の主催でここ4年ぐらい前から実施して来ていたものが、事務所主催は従来どおりとしたうえで、協議会主催を野幌森林公園にとどまらずニセコ（神仙沼）、恵庭（恵庭公園）、滝野（滝野すずらん丘陵公園）と年6回を計画し、あとは2月26日（日）10:00~12:00の「滝野の森を歩く」を残すのみとなりました。

実施にあたりましては、地元市町村や関係会員の皆さんの献身的なご協力により成果をあげることが出来たものと感謝しております。

自然観察会の回数を増やしたことは、自然観察会を通してより多くの参加者の皆さんが、自然に親しむなかから自然を愛する心が醸成されることを第一義としていますが、会員の皆さんの参加の機会を多くする意味もあり、一人でも多くの会員参加を希望しています。

また、年4回発行の会報「エゾマツ」も年度内に第32号を残すのみとなりましたが、内容の充実に目を見張るものがあり、広報部の皆さんのご努力がページに溢れています。

さらに編集しやすいかたちにするために、自然観察会や総会に参加出来ない皆さんにはより積極的なご投稿をお願いします。（研修部・広報部担当）

## 冬、生きている証を求めて

夜、降り続いていた雪も朝とともにやみ、太陽が顔を出します。太陽の光が居間にもとどき、一日の始まりの幸せを感じる一瞬です。

庭に設けてある給餌台の上で、シジウカラが餌をついばんでいましたが、どこへともなく飛び去ってしまいました。

今日は、近くの森へ出かけてみることにしました。

雪の上には幾つもの足跡を見ることができます。一直線に続いているのは、ゆっくりと歩を進めたキタキツネのトレイルでしょう。縦方向に二つ、横方向に二つのT字形はノウサギでしょう。両足の間に尾の痕が規則正しく続いているのはネズミの仲間でしょうか。

静かな森の中で、梢を飛び交う小鳥の音が止まります。耳を澄ますと、春を待つ木々の鼓動が伝わってくる錯覚におちいる1月の森です。

### 10月以降の活動

- 10月20日(木) ・広報誌「エゾマツ」30号 発行、発送
  - ・平成6年度 会員名簿 作成、発送
- 10月23日(日) ・野幌森林公園事務所主催 秋の森観察会 協力参加
- 11月10日(木) ・野幌森林公園事務所主催
  - 「11月の森観察会」協力参加
- 11月27日(日) ・「野幌の森林」観察会、下見
- 12月 4日(日) ・10:00~12:00 「野幌の森林」観察会
  - ボラレン17名 一般65名 計82名 参加
- 1月12日(木) ・森林公園事務所主催 「1月の森観察会」協力参加
- 1月13日(金) ・役員会 於:かでの2・7
- 1月20日(金) ・広報誌「エゾマツ」31号 発行、発送

# 自然観察用物品の寄贈を受ける

私達ボランティア・レンジャー協議会の活動は、自然の素晴らしさや大切さを多くの人々に知ってもらい、積極的に自然を保護していく心の啓発をしていくことにあります。

このような私達の活動が、全道庁労働組合から社会貢献活動をしているボランティア団体として認められ、昨年12月2日の「野幌の森林自然観察会」の際、自然観察用物品の寄贈を受けました。寄贈を受けた物品は次の通りです。

- ・連絡用通信機一式（2台）
- ・望遠鏡（2台）
- ・双眼鏡（15台）

▼レンジャーから熱心な観察指導



▲ボランティア・レンジャー協議会々長へ備品目録贈呈

1月13日の役員会で、これら寄贈を受けた物品の活用、管理方法について話し合われました。会員の方々が大いに活用し、観察会の質的な向上が図られるよう考えていますが、平成7年度の総会時に利用貸し出し方法が提示されます。

## 平成7年度 総会日程決まる

1月13日 第3回役員会が開催されました。話し合われた内容の概略は平成7年度総会要領、2月26日に実施される「滝野の森を歩く観察会」、寄贈物品の活用方法です。

総会日程は後日案内されますが、次の通りです。

平成7年度総会 4月15日(土) 13:00~研修会 15:00~総会

# 会員の

# 声

広島町 倉岡啓吉

昭和58年の山のガイドブックには「岸壁の間に見られる美しい植物は、訪れる登山者のみんなで大切にしよう。いつまでも自然のままの状態で咲き乱れているようにしたい。」と書かれている。

しかし、この数年の盗掘はどうしたことか？ 登山路の傍に放置された数個の小ビニール袋の根跡は無残であった。

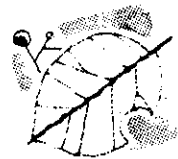
むなしさだけがよぎる今春の「嵯山」の出来事でした。

札幌市南区 櫻井 洋子

私、平成5年8月の第14回研修会受講生です。当協議会主催の行事には何一つ参加することが出来ずに今日に至っております。

ですが、自分なりにアレコレ気を廻しながら、それなりに自己研さんに励んでおります。この晩秋には色づいた木の葉を沢山拾いました。オオイタドリの茎も沢山刈り取りました。さて、どう使いましょうか。

これまた、アレコレ気を廻し、森林と親しみに訪れた方々への「思い出作り」の手作業として役立てたいと思い思案中です。



札幌市白石区 渡辺 観 寿

皆さんお元気でしょうか。しばらくボラレンの活動を休んで、何かうしろめたい気  
でおります。今年、カヌーを習いに、どんころ学校や支笏湖に通いました。

カヌーから眺める河の流れ、湖をとりまく緑に、まだ十分なゆとりはありませんが  
カヌーの操作が上手になれば、またちがった世界が広がる……そんな予感がします。

とにかく、カヌーを手に入れる、それが今年の妻との最大の交渉事項になりそうで  
すが。カヌーの中古ってないのですかね？

札幌市東区 伊藤 秀 平

美深の研修より、レンジャーに加えて頂き、自然観察の参加者と一緒になって勉強  
させて頂いている者です。

地球上の生物は、お互いに共存しながら生きており、何一つ無意味なものは無いと  
思います。そんな自然の奥の深さを感じつつ、いろいろな事を時間を掛けて学んでい  
きたいと思っています。

そして、自然を楽しみながら参加して、レンジャー活動を続ければいいなと思っ  
ている者です。

札幌市厚別区 関 広 司

自然に親しみ、自然とともに生きる心を育てるには、小学生位の幼少の年代が最も  
適していると思う。

しかし、今日の学校や家庭の教育にはこうした面への配慮が足り  
ないように思う。折角自然に恵まれた北海道で、ボラ連や他の自然  
保護に取り組んでいる団体が、こうした点での啓蒙活動や実践的取





り組みに協力していくことが必要かと考えています。(今の学校にはこうしたことのできる指導者が少ないように思います。)

室蘭市 高木 健宏

室蘭地方にも、ボラレンの方は結構おられるのですが、互いの連絡が悪く、ボラレンとしてまとまった活動が出来ていないのは残念の限りです。しかし探鳥会とか、自然観察会、きのこの会などにでかけてみますと、それぞれリーダー的な活躍をされている方もおり、皆様の自然に対する愛着の強さと独自に研修をして造詣を深めているさまが伺い知れます。

室蘭の話題と言えば「カササギ」があります。一昨年何処から現れたのか突然、送電鉄塔に営巣しだしたのが地元新聞に出、鳥に興味の無い人にも大変なニュースとなり、街中にも出没するものですから、見た見ないの話で持ちきりになりました。鉄塔は感電の危険ありと、二度三度、人による巣の解体により ついにあきらめたのか営巣した場所が、私の職場から50メートルも離れていない緑地帯の林の中にある古いカラスの巣を利用したものでした。余り話題になってはと、私はなるべく人に話さず静に観察させてもらいました。結局三羽が巣立ちましたが、二羽は冬が越せなかったのか、他に移ったのか春には姿が見えなくなりました。

去年は、今度は私の家から200メートル位の所に春早くから新しい巣作りを始めその過程を観察できました。二羽は巣立ったようですが、詳しくは判りません。今は親がツガイで行動する他は、単独行動をして、街中を飛びまわっておりますので、室蘭に来られた折り、小型のカラスがギコチなく飛んでいる姿を見たらカササギと思つて観察してはいかがでしょうか。

この様な、身近に起こるあらゆるものに耳をそば立てながら暮らしの中に取り込み自然のあらゆるものに興味を持ち続けて近い将来には、室蘭地方のボラレンの皆様と手をたずさえて活動出来る事を夢見しております。

# 秋の森の観察会

札幌市 武田 洋子

霰が、パラパラと車のフロントをうち、秋をとびこえ、いきなり冬になってしまった様な肌寒い日曜日。あいにくの天候にもかかわらず60名程の参加者が集合。六班に分かれ、大沢口から公園に入り、樹上のイワオモダカを観察。黄葉し、葉を落としはじめたカツラの木の下では、甘い香りを充分感じていただけたと思います。

マイズルソウの赤い実は愛らしく、エゾユズリハは暗青色の実を葉陰にひっそりとつけていました。九月の観察会（端穂コース）の時、ハイヌガヤがたわわに実をつけていたので、楽しみに出掛けたのですが、見つける事が出来ず残念でした。

エゾフユノハナワラビは胞子葉が無残に折られているのが多く無事に育っているのか少々心配です。

時折落ちてくる秋雨に傘をさしたり閉じたりしながら、ハシブトガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラが忙しく囀り飛ぶ様をしばしウオッチング。目の前の幹をゴジュウカラがくるくる廻りながら降りてくる様は、いつ見ても楽しい気分させてくれます。

ほかに、アカゲラ、コゲラ、上空にトビを確認しました。ツタウルシ、ルアジサイノブドウ、ツルウメモドキ、イワガラミ等、ツル性植物の巻き付きかた、葉の付きかた、気根も詳しく見る事ができました。

昼前には雨もあがり、帰路は紅葉、黄葉を眺め、サルナシの実を数えたり、柳の木にスギタケを見ながら「桂コース」をのんびりハイキングです。途中、来し方を振り返り、ハウチワカエデ、イタヤカエデ、カツラ等に染められた景観に賞賛の音が盛んにあがっていました。

一班が十人位と説明の声も届きやすい編成で参加者とのコミュニケーションもとりやすかったと思います。

雨の日の観察会もしっとりとしていいものでした。

( 1994.10.23 の観察会より )



## 冬の観察会に参加して

第15期生 菊池 秀樹

木の葉の落つるも、まづ落ちて芽ぐむにあらず。下よりきざしつはるに堪へずして落つるなり。 ( 徒然草 )

11月27日(日)の下見と、12月4日(日)の観察会に参加させていただきました。特に12月4日は午前中に観察会、午後には専修短大 石川幸夫氏の講演と非常に有意義な一日でした。

午前の部の観察会を終えた昼休みの席で、突然に事務局長の佐々木さんから「菊池さん、今日の感想を書いてください。」との一言。しかも、あの厳しい顔付きで。お断りする暇もなく「はい、わかりました。」と言ってしまいました。いつもこの調子なののでしょうか。私は前途に不安を感じてしまいました。おまけに、午後の講演では最前列のしかも事務局長さんのお隣りの席に、彼自らの案内による座席指定。ボランティア・レンジャー協議会とは、かくも厳しき新人教育をする団体であったのかと今更ながら、選択の誤りを悔やんでおります。

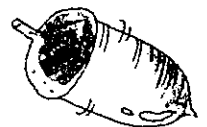
今年(平成6年8月)に美深にてボラレンの研修会を終え、その後9月の観察会からお伴をさせていただきました。森林公園の草木の多いこともさることながらそれを上回るベテラン・レンジャーの方々の知識の豊富さに恐れと脅えを感じております。

そして今日(12月4日)の観察会です。木に葉がついていても識別できない私です。ましてや、木の葉が落ちてしまった冬です。私に何の解説ができませんでしょうか。しかし、幸いにも、大友会長さんの率いる親子連のグループに同行させていただきました。

スタート直後、小学生に会長さんが木の大きな種別として、落葉樹と常緑樹の説明をなさいました。その折り「君、常緑樹という字がわかるかな。常緑樹の常は、ジンジョウショウガッコウの……。」と言いかけて笑いを誘う楽しい場面がありました。

わたしは何の説明もできませんので、子どもたちに双眼鏡を貸してあげたり、ルーペで観察させてあげたりと、それなりにお手伝いをしているうちに、私にも何かできることがあるのだなあという感動が少しずつ湧いてきました。

また、ミズナラとリスとのメルヘンチックな話のときなど、足もとの落ち葉を掻きわけてドングリを数個見つけ子どもさんにあげたときの「あ、ドングリだ!」という声。事務局長さん、このへんなのでしょうか、ボラレンの楽しみとは。



そんなこんなで、人との接し合いの中に何とも言えぬ楽しさを感じた観察会でした。

# 本の紹介

## BOOK

エコ・ネットワーク 編

北海道 野生動物の痕跡を読む

北海道新聞社 1994.11.24 発行

定価 2300円

森や林に入ると、大型の鳥に襲われたと思われる小鳥の羽根が散乱して入る場面にくわします。また、道端に動物の糞が落ちているのも目にするがあります。

冬になると、雪の上を点々と残されているさまざまな動物の足跡をみることもできます。雪上の足跡を見るとき同じ動物でも、歩行・走歩の状況によって残された形状はちがいます。

このような、フィールドサイン（フィールド＝野外 サイン＝痕跡）から私たちは動物の種類や生態を推理することができます。

本著「北海道 野生動物の痕跡を読む」は、フィールドサインを6章にわけ、多くの写真と想像復元図を重ねあわせて解説しています。

1. 足跡…足跡は野生動物の生活を推理する情報源である。
2. 糞とペリット…動物が何を食べているかの食性の情報源である。
3. 食跡…食に直結しているため糞より抵抗が少ない。
4. さまざまなサイン…何かの目的をもって利用された痕。
5. 巣と巣穴…巣のつくられた場所・形を見ることによって動物を推理する。
6. 死体…ある動物の死は他の動物の生を保証する。

編者は本著について「この本は動物の専門家を対象としたものではない。あくまでも少し自然に関心が出てきた、あるいはこれから自然とのふれあいを始めてみたいといった『関心層』に向けたつもりである」と述べています。

リアルな写真の中から私たちは、多くの知識とイメージをふくらませることができるでしょう。

# 冬の自然 ウオッチング

北海道の自然の大きな特色は、冬の寒さと積雪にあります。この寒さと雪を私たちは自然の恵み、自然の贈り物と受け止め、屋外へ積極的に出てみましょう。きっと冬の自然の営みから学ぶことが多いでしょう。

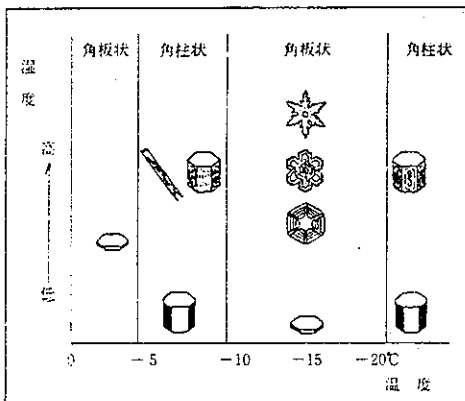
## 1. 雪を知る

### (1) 雪のできかた

「雪の結晶は天か送られた手紙である」。かつて雪の研究で有名な、故中谷宇吉郎博士が述べた言葉です。この言葉に続けて「その手紙の文句は結晶の形、模様という暗号で書かれている」とも述べています。

雪の結晶は、大気中の非常に小さな細塵を核に水蒸気が昇華して氷晶ができることにあります。さらに、昇華が進んで成長した氷の結晶は、その時の温度と湿り気、つまり水蒸気の量で、形・大きさが決まってきます。

(昇華：個体が液体の状態を経ず直接気体になる現象)



温度や湿り気の状態でどんな大きさの結晶ができるかがわかっていれば、降ってきた結晶を見て上空の気温や湿度、さらには上昇気流の強さも想像することができます。「天から送られた手紙」とはこのような意味があります。

雪には降ってくる一つ一つの結晶にちがいがあります。どうして、このようなちがいが

おきるのでしょうか。それは、前述したように雲の中の温度と湿度で決まります。例えば、樹枝状結晶は気温 $-15^{\circ}\text{C}$ 前後、針状結晶は $-5^{\circ}\text{C}$ 前後、砲弾型は $-25^{\circ}\text{C}$ 以下で成長し、結晶に無数の水滴粒が凍りつくるとアラレになることがわかっています。

雪の結晶というと、樹枝状の独特な六角形をイメージしますが、これは氷を作っている水の分子が内部で六角形に結合しているからです。同じ六角形でもさまざまな形があるのは、結晶面の成長する速さや方向がみなちがうからです。ですから、ふたつとして同じ結晶はありません。

## (2) 雪の分類法

### ◎雪の結晶の実用分類

番号	名前	代表的な形				
1	角板				m	破片(くだけた雪の結晶)
2	樹枝				r	雲粒付き(小さな水滴がついている雪)
3	角柱				f	雪片(ぼたん雪)
4	針				w	ぬれぎみ
5	立体樹枝					a 0~0.5mm
6	つづみ					b 0.5~1mm
7	不規則					c 1~2mm
8	あられ					d 2~4mm
9	凍雨					e 4mm 以上
10	ひょう					

その他の特徴

(枝が立体的に伸びているもの)

(角柱の両面に角板のついているもの)

雪の大きさ(D)

降ってくる雪の結晶の観察をするとき、結晶をスケッチするとか、レプリカを作るとか、いろいろと方法がありますが、国際的な実用分類法で分けてみてはどうでしょうか。例えば、[F2fwDe]とは、雪の形(F)が樹枝(2)でぼたん雪(f)でぬれぎみ(W)、大きさ(D)は4mm以上という意味です。

### (3) 雪の恩恵

降りつもった雪、すなわち積雪は多くの空隙をもち空気を含んでいるので、熱を伝えにくい性質を持っています。このような積雪の断熱効果によって、多雪地帯では地盤や土壌は寒気にさらされず凍結しないという利点があります。また、降り積もった雪が、春になると融雪水となり、いったん地中にもぐり、水温が上昇してから5月に河川へ流出し、豊富な水資源となります。札幌を例にとると、

一冬の積雪を水に換算すると、札幌の住人一人あたり40トンになるとの計算もあります。

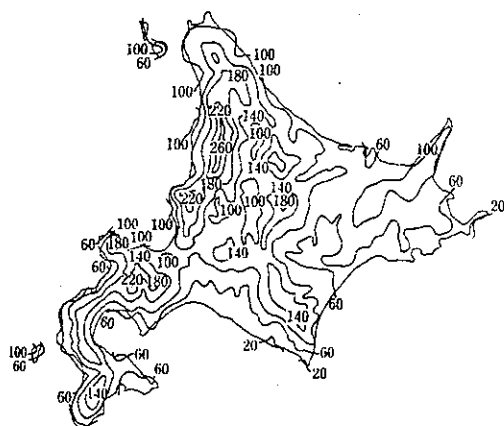


図3-2 北海道における積雪深さ分布(平均最深)(林業試験場北海道支場, 1983から)。期間: 1962~1981年, 単位: cm

## 2. アニマルトラッキング

足跡を見るには、雪の季節が最も好都合です。動物は雪上を歩く限り、雪の上に足跡を残し続けるから、どこでも簡単に足跡を発見することができます。

エコ・ネットワーク編「北海道野生動物の痕跡を読む」の中で、足跡を次のように述べています。

「連続した足跡が確認されると、実に多くの情報が読み取れる。まず、足跡の主が特定できるはずだ。大人か子供かわかるかも知れない。たいていは足跡のつき方からゆっくり歩いていたものか、駆けていたのか見当がつく。また場合によっては、どん

な生活をしていたか推測できるケースもある」

私たちが、冬のこの季節アニマルトラッキングにでかけましょう。

### (1) 足跡の名称

#### ●足跡 (Track)

長く続いた一連の足跡をいう。

#### ●足痕 (Print)

一つの足によってつけられた跡をいう。通常の哺乳類は四肢を持つから、四個で一組みの足跡になる。

#### ●足跡幅 (Straddle)

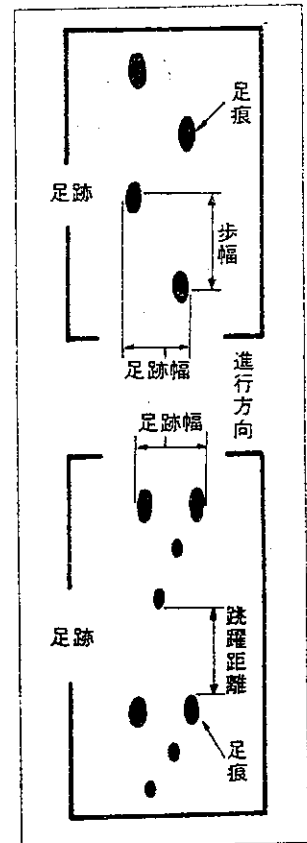
足跡の幅。ふつうは胸幅によってきまる。

#### ●歩幅 (Strid)

歩いている動物の2個の足痕間の距離。

#### ●跳躍距離 (Leap)

4個で一組の足痕間の距離。走ったり、跳んだりする動物によって残される。



### (2) 足痕の主を推測する

#### ●規則的で単純



ほとんど一直線で歩いています。この動物は、前足でできた足痕の上に後足をほぼ正確に乗せています。(イヌ科、ネコ科、偶蹄類)

#### ●不規則で複雑





足跡が2列で、大小の足痕が対であったり、一定の間隔をおいて足痕が1対並んでいるが、全体として見ると不規則です。(イタチ科、クマ科)

●大小の足痕が対



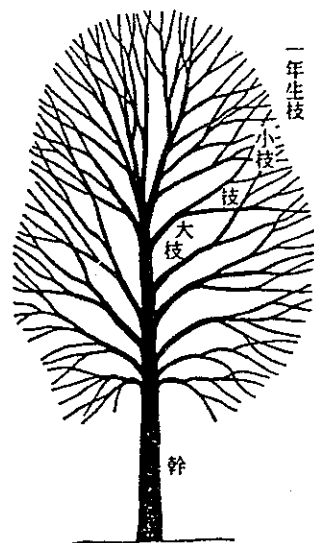
足跡が2つの大きな足痕と2つの小さな足痕が対になっています。この動物は両前足を地につくと、両後足を前足をまたぐように前にもってくるので、このような足跡をつけます。(ウサギ類、リス科、ネズミ科)

## 2. 冬の樹木観察

冬の期間の樹木(落葉広葉樹)は、葉がついていない裸木なので、樹種の見分けがむずかしいという人がいます。しかし、夏の盛りの葉が覆茂っている林の中では、樹種の見分けが大変困難の場合もあります。むしろ、冬の裸木の方が、樹形や枝ぶりが明らかに見えて、樹種を判定しやすい面があります。また、冬ならブヨやカ、アブやダニに襲われる心配もなく、ウルシにかぶれるおそれもなく、ゆつくりと樹木を観察することもできます。

しかし、葉がない樹木を見分けるには、樹木の樹形(幹や枝ぶり)、樹皮の特徴を覚え、大枝、枝、小枝までの連性を観察しなければなりません。さらに一年生枝や冬芽の形態をしつかり覚えなければなりません。

これらの手順がすべてわからなくとも、何かを手掛に、樹木の特徴をつかみ、飾りのない木々の魅力を発見することは、冬でなくては味わえぬ観察だと思うのです。



広葉樹の樹形の模式図

## (1) 冬芽の種類

冬芽の観察、特に一年生枝を観察するには、双眼鏡を使うとはつきりします。枝先の冬芽には、一年生枝につく位置によって、名称がつけられています。それは、「頂芽」と「側芽」に分けられます。

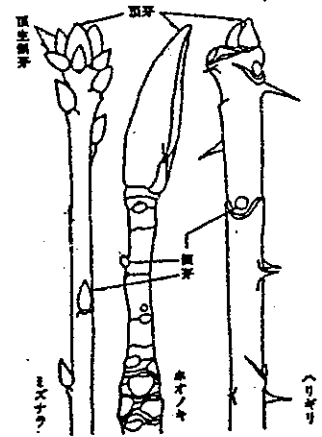
### ●頂芽、仮頂芽

枝の頂端に大きく発達した芽です。これは開葉すると新条となって伸びますが、幹頂芽と枝頂芽があります。

幹頂芽は鉛直に伸びる一年生枝になります。枝頂芽は開いて水平に伸び枝の主軸になります。

仮頂芽は、頂芽の一種とも側芽の一種とも見られます。

頂芽と異なるのは枝先に枝痕が残っていることですが必ずしも側芽より大きくないことです。

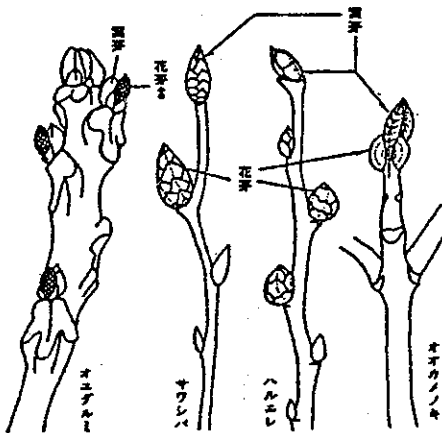


頂芽型の樹種の一年生枝

### ●側芽

一年生枝についた冬芽のうち、頂芽または仮頂芽をのぞいたすべての芽が側芽といえます。一般的には、側芽は下位のものほど小さくなりますが例外もあります。

冬芽は、また次のように区分することができます。



葉芽と花芽

●葉芽：春に冬芽が開いたとき、葉や新条になるものです。

●花芽：開いたら、花ないし花序になるものをいい、ふつう葉芽より丸味をおび大きい傾向があります。

●混芽：花と葉が一緒に含まれたものをいいます。混芽は大きく、葉芽と明らかに区別できますが、単に花芽とも呼ばれます。

## (2) 樹皮

樹皮の見分けは、樹形よりも樹皮のほうが判別しやすいという人もいます。

樹皮の特徴は、若木や成木によく現れます。それも、成長旺盛な肌つやのよいものほど特徴があります。

樹皮による樹種の判定は、直径30cmぐらいの部分を基準にします。それは、幹が太くなると、ほとんどの樹種の肌に深い亀裂をうむからです。

樹種は、それぞれ固有な形態を持っていますが、平滑なカンパ類を覚え、カエデ類と進んでいきましょう。亀裂の特徴のある樹種はそのパターン（深さ、幅、縦長の種類、溝の底の色など）を覚えていきましょう。

.....  
特集「冬の自然ウォッチング」をまとめるにあたって、次の書籍、資料を参考にしました。

- ・北海道自然のなりたち                      北海道大学図書刊行会
- ・雪のかんさつ                                札幌市青少年科学館
- ・北海道野生動物の痕跡を読む            北海道新聞社
- ・アマルトラックハンドブック            自由国民社
- ・1994.2.27 斎藤新一郎（林業試験場道東支場長）講演会資料

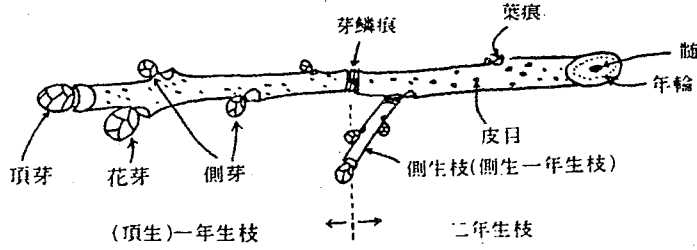
## ワシミミズク 「種の保存法」で緊急指定

環境庁は道北で初めて繁殖が確認されたワシミミズクと沖縄で発見された二種のホタルを「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（種の保存法）に基づき初の緊急指定種に指定しました。

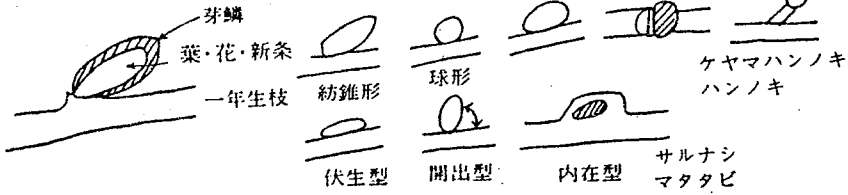
ワシミミズクは、シマフクロウに似ているが、足に羽毛があり目がオレンジ色であり、主に岩場に生息します。（1994.12.22 道新朝刊より）

【冬の樹木観察資料】

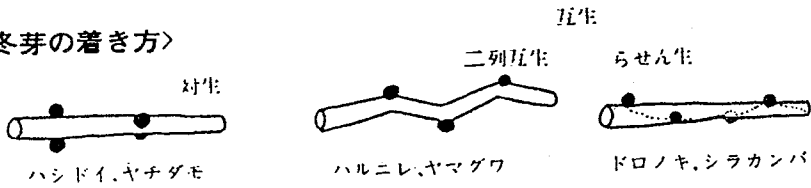
落葉した小枝



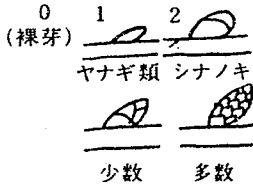
〈冬芽の形〉



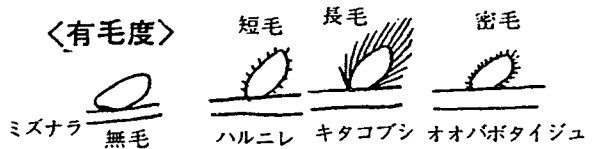
〈冬芽の着き方〉



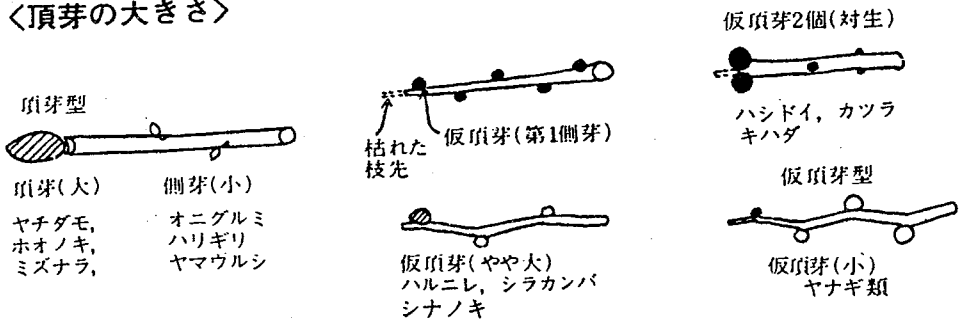
〈芽鱗数〉



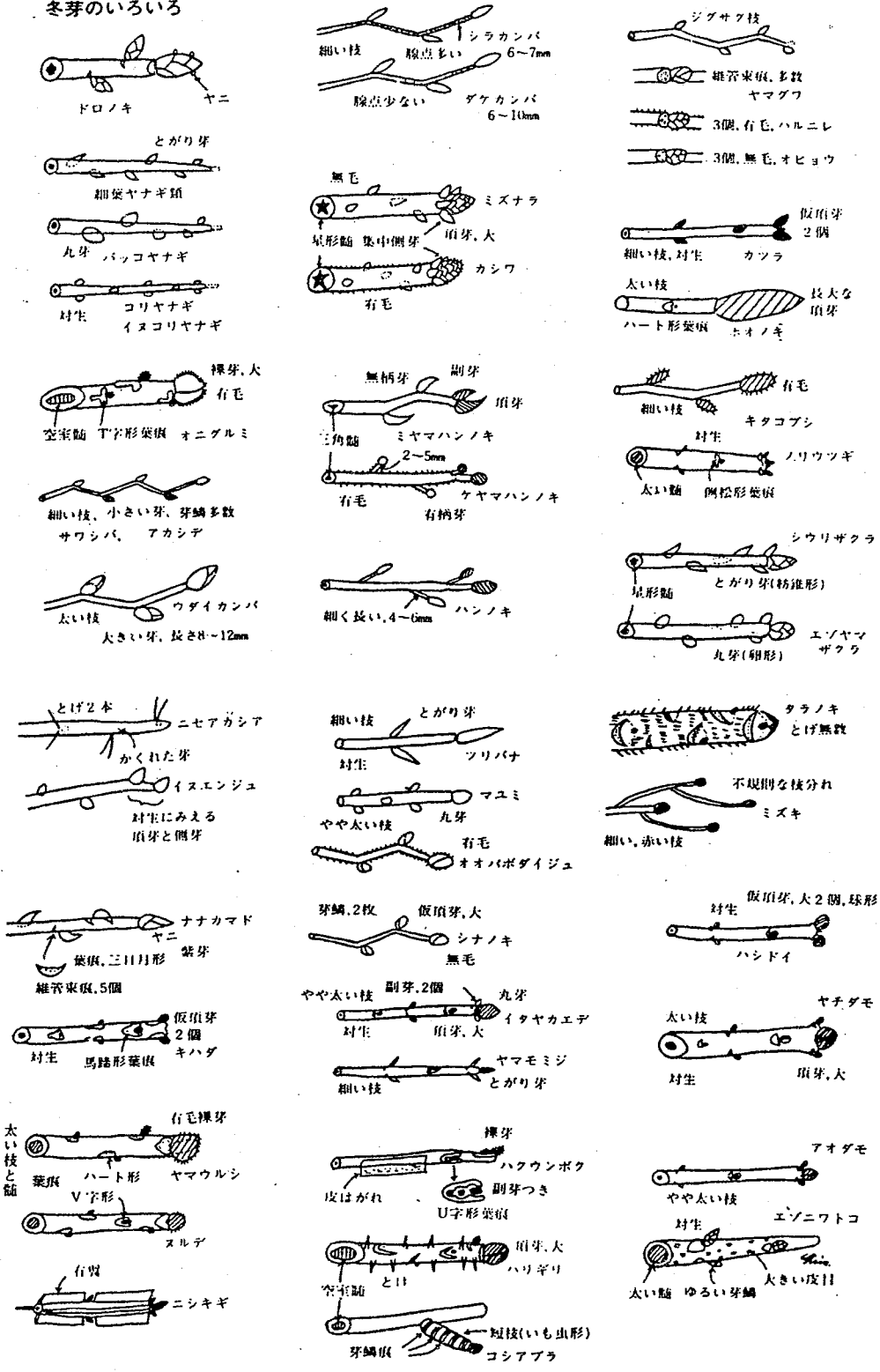
〈有毛度〉



〈頂芽の大きさ〉



冬芽のいろいろ



# ことば の 解説

## 西高東低

空気は冷やされると重くなって地面に溜る傾向があります。これが成長すると天気図によくでてくる大陸のシベリア高気圧と言われるものとなります。シベリアはタタール語の「眠れる大地」という意味です。

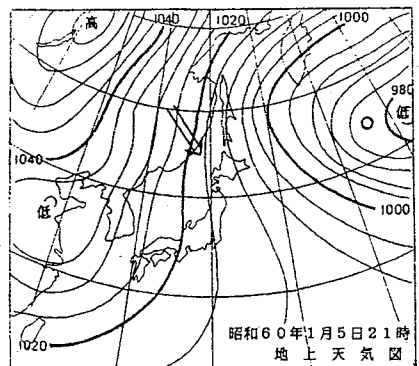
寒気は溜りすぎると、自分の重さに耐えかねて、やがて周囲に向かって流れだします。このうち日本付近に流れ出したのが北西の季節風となるのです。

右下の図はシベリア高気圧の一例でバイカル湖付近に1058ヘクトパスカルの高気圧が見え、一方日本の東には976ヘクトパスカルの低気圧があります。日本を基点として見ると、西に高く東に低い、いわゆる西高東低の気圧配置になっています。

水が高いところから低いところに向かって流れるように、空気も気圧の高いところから低いところに向かって流れます。空気の流れが風ですから、この理屈によると空気は大陸から日本に向かって流れ、西風になるはずですが、しかし、これに地球自転の影響（偏向力）が加わるため、流れ出した空気は北半球では右にそれ、図のように矢印のような北西風になります。シベリアから流れ出した寒気（高気圧）が日本海を渡るうちに水蒸気もらい、これが日本列島の山脈

にぶつかると、上昇気流を起こして雪になります。日本の豪雪地帯といわれる北陸地方に雪が多いのは、日本海を渡る距離が北海道付近より2倍以上もあり、加えて南ほど海水温度が高いので与えられる水蒸気も北海道よりはるかに多いからです。

■図9 季節風型天気図の一例



# 野外救急講座

救急救命士 今野義也

No. 4 (第12回ボラ・レン育成研修会終了)

## 凍 傷

冬の寒い日(0・C以下)に長い間野外で活動していると、皮膚及び皮下組織が冷えて血行が悪くなり、やがて氷結していき、凍傷がおこります。また湿度の高い6・C~10・Cの低温環境では、体の末端部の血液の流れが悪くなって凍そう(しもやけ)がおこります。ここでは凍傷について述べます。

### 【症状】

手・足・耳・鼻などに発生しやすく、重さによって1度から4度に分類されます。

#### (1) 軽い症状の場合(第1・2度凍傷)

ア 凍傷部分に痛みを感じる。

イ 凍傷部分の皮膚は赤く腫れ、水ぶくれができたり、水ぶくれがくずれて傷になったりする。

#### (2) 重い症状の場合(第3・4度凍傷)

ア 凍傷部分の感覚がなくなる。

イ 凍傷部分の皮膚は蒼白、青紫色を呈する。

ウ 凍傷部分は20~30日で健康部分から自然に脱落する。また細菌に感染したまま放置した場合には、切断しなければならないこともある。

### 【手当】

(1) 凍結している靴、手袋、靴下を皮膚を痛めないように脱がせる。手袋、靴下などが皮膚にくっついているときは、ぬるま湯に浸して脱がせる。

(2) 凍傷部は32・C~40・Cの湯、暖かい手、暖房した部屋で徐々に暖める。マッサージ、火気で直接暖めること、雪でこすることは行なってはならない。

(3) 全身を保温し、暖かい飲物、睡眠、休養をとらせる。タバコは吸わせてはならない。

(4) 水ぶくれ及び傷のある場合は、包帯やガーゼなどで、傷口を覆う。この際水ぶくれをつぶさないように気をつける。

(5) 以上の手当をしたら、病院に連れていくか、救急隊に連絡す

る。この際足に凍傷がある場合は、歩かせてはならない。

### 【予防】

- (1) 気候・温度にあわせた防寒被服を着るとともに、常にそれらの整備、交換に気を配る。
- (2) 木綿性の靴下の上に毛織の靴下を重ねて履き、足の湿潤防止と保温を図る。
- (3) 耳・鼻・指・手等の凍傷になりやすい部分を摩擦するとともに、足踏み、靴の中で足の指を動かす等体温の低下を防止する
- (4) 顔・手・足等凍傷になりやすい部分は常に清潔に保つ。
- (5) 濡れた手袋や靴下は、速やかに乾いたものに取り替える。また、濡れた手はこまめにタオル等で拭く。

手当の手順 暖かい場所へ患者を運ぶ。できれば屋内に移動するのが望ましい。

つぎに患者の体を締めつけている衣服・ボタン・ベルトなどをゆるめ、毛布やシートなどに包んで全身を保温する。凍傷部を急に熱い湯につけたりしてはいけな<sup>い</sup>。ぬるい湯から徐々につけていくようにする。

患者のようすが落ちついてきたらぬるま湯を飲ませる。



### (参考文献)

- 1 救急法及び野外衛生 陸上自衛隊衛生学校
- 2 アウトドア救急ハンドブック 小学館

☆ 今回は予定を変更し、凍傷のみとしました。  
次回は植物による食中毒の予定です。



「平成6年度ボランティア・レンジャー育成研修会及び実践セミナー」  
アンケートの集計結果について

北海道保健環境部自然保護課

ボランティア・レンジャーの皆さんには、日頃から自然保護思想の普及に御尽力いただきありがとうございます。

さて、平成6年度に実施したボランティア・レンジャー育成研修会及び実践セミナーにおいて、参加者の方々に協力をお願いしましたアンケートの集計結果がまとまりましたのでお知らせします。

1 平成6年度ボランティア・レンジャー育成研修会

月 日：平成6年7月29～31日

場 所：上川郡美深町 美深森林公園

参加者：44名

〔石狩16 釧路2 根室3 空知2 上川8 宗谷2 胆振2 日高2 十勝5 釧路1 留萌1〕

〔男性35 女性9〕

研修内容：「北海道の自然の変遷と開拓の歴史について」 北海道開拓記念館学芸部長 関 秀志

「北海道の野生動物を知ろう」 北海道環境科学研究所自然環境部長 村野 紀雄

「野鳥の習性と探鳥について」 北海道環境科学研究所主任研究員 梅木 賢俊

「探鳥会」 北海道環境科学研究所主任研究員梅木賢俊、日本野鳥の会住友順子・佐藤満

「森のなりたちとそのはたらきについて」 北海道立林業試験場森林部林業専門技術員 橋場 一行

同 林業専門技術員 大沢 孝三郎

「自然解説の方法と技術について」 北海道ボランティア・レンジャー協議会会長 大友 健

同 副会長 川端 功治

同 理事(研修部) 五十嵐一夫

2 平成6年度ボランティア・レンジャー実践セミナー

月 日：平成6年9月17～18日

場 所：網走郡津別町 道立津別21世紀の森及び上里地区(ホテル フォレスター)

参加者：33名

〔石狩14 根室1 空知1 上川3 網走5 胆振2 十勝2 釧路5〕

〔男性26 女性7〕


研修内容：「木を使った豊かな暮らし」 道立林産試験場企画指導部主任研究員 大久保 勲

「山林の見方」 北海道北見道有林管理センター経営企画課企画係長 田中 時雄

同 主任(利用部) 西島 昭夫

「森の中での遊びと学習」 北海道立林業試験場森林部林業専門技術員 橋場 一行

同 林業専門技術員 大沢 孝三郎



ボランティア・レンジャー育成研修会(賛助) アンケート集計結果 H6. 7. 31

【回答者44人 回収率100%】

1 今回の研修会の動機は次のどれですか。(複数回答)

- |                          |     |       |
|--------------------------|-----|-------|
| ① ボランティア・レンジャーに興味があるため。  | 15人 | 34.1% |
| ② 自然観察会等に参加するため。         | 10人 | 22.7% |
| ③ これからボランティア・レンジャーになるため。 | 8人  | 18.9% |
| ④ 将来ボランティア・レンジャーになるため。   | 7人  | 15.9% |
| ⑤ ボランティア・レンジャーの資質を高めるため。 | 2人  | 4.5%  |
| ⑥ その他                    | 5人  | 11.4% |

内容 ・ 仕事に役立てたい。(自然観察会等の企画)

・ 日頃の活動(グループ活動)に役立てたい。

・ 「ボランティア・レンジャー」について知るため。

2 これまでに自然観察会、探鳥会などに参加したことがありますか。

- |       |     |       |       |     |       |
|-------|-----|-------|-------|-----|-------|
| ① ある。 | 21人 | 47.7% | ② ない。 | 23人 | 52.3% |
|-------|-----|-------|-------|-----|-------|

あると答えた方は何回くらいですか。

- |          |     |         |    |          |    |
|----------|-----|---------|----|----------|----|
| ・ 1～5回   | 10人 | ・ 6～10回 | 5人 | ・ 11～15回 | 0人 |
| ・ 16～20回 | 2人  | ・ 20回以上 | 4人 |          |    |

3 自然観察会、探鳥会、子供会で自然解説などの指導をしたことがありますか。

- |       |     |       |       |     |       |
|-------|-----|-------|-------|-----|-------|
| ① ある。 | 10人 | 22.7% | ② ない。 | 34人 | 77.3% |
|-------|-----|-------|-------|-----|-------|

あると答えた方は何回くらいですか。

- |        |    |         |    |         |    |
|--------|----|---------|----|---------|----|
| ・ 1～5回 | 4人 | ・ 6～10回 | 3人 | ・ 11回以上 | 3人 |
|--------|----|---------|----|---------|----|

4 最も興味を持っていること、又は、解説をする場合に担当したいと思われることは何ですか。(複数回答)

- |         |     |       |       |     |       |         |    |       |
|---------|-----|-------|-------|-----|-------|---------|----|-------|
| ① 植生・植物 | 29人 | 65.9% | ② 鳥類  | 14人 | 31.8% | ③ 歴史・産業 | 7人 | 15.9% |
| ④ 地質・地史 | 4人  | 9.1%  | ⑤ 哺乳類 | 2人  | 4.5%  | ⑥ 昆虫類   | 2人 | 4.5%  |
| ⑦ 天体・星座 | 2人  | 4.5%  | ⑧ その他 | 4人  | 9.1%  | 空白      | 1人 | 2.3%  |

5 ボランティア・レンジャー相互の連絡や観察会等の情報について、どのような形で行われるのが良いと考えていますか。(複数回答)

- |                                       |     |       |
|---------------------------------------|-----|-------|
| ① 北海道がボランティア・レンジャー協議会に参加する。           | 21人 | 47.7% |
| ② 行政を通じて連絡をもらう。                       | 17人 | 38.6% |
| ③ 個々に必要に応じて実施する。                      | 6人  | 13.6% |
| ④ その他(ボラ・レン協議会の体制充実(支庁単位の支部組織化等))、無回答 | 3人  | 6.8%  |

6 北海道や市町村が主催で行う予定の自然観察会等で、ボランティア・レンジャー（自然解説員）として協力を求められた場合、

(1) 次のどのような活動ができると思いますか。（複数回答）

活動内容	人数 (%)	支 庁 別 (人)										
		石	渡	後	空	上	宗	胆	日	十	釧	留
自然解説とその補助	24 (54.5)	9	1	1		5	1	1		4	1	1
植物などの保護監視	14 (31.8)	4	1	1		1	1	2		2	1	1
美化清掃運動	12 (27.3)	1		2	1	2	1	2	2			1
利用者の指導	4 (9.1)	2			1			1				
その他	5 (11.4)	3						1		1		
その他内容… 秋の自然、山岳ガイド・川遊び						無回答	1	2	3%			
回数												
年数回	7 (15.9)					2	1		1	1	1	1
月に1～数回	14 (31.8)	9	1	1		1		1			1	
ほぼいつでも	22 (50.0)	7	1	2		5	2		1	4		
困難	1 (2.3)					1						
時期												
日曜・休日	27 (61.4)	13	1	2		5	1		1	2	1	1
平日で可能	13 (29.5)	4	1	1	2	1			1	3		
春・夏休み等	7 (15.9)	2				1	2			1		1
その他	3 (6.8)	2						1				
その他内容… 土曜日、冬休み、参加する意思なし						無回答	2	4.5%				

(2) 活動を行う場合、特に必要と思われることは何ですか。（複数回答）

- |          |     |       |           |     |       |
|----------|-----|-------|-----------|-----|-------|
| ① 保険の制度化 | 16人 | 36.4% | ② 旅費等の支給  | 14人 | 31.8% |
| ③ 宿舎の確保  | 13人 | 29.5% | ④ 食事の確保   | 5人  | 11.4% |
| ⑤ 地位の向上  | 4人  | 9.1%  | ⑥ その他、無回答 | 4人  | 9.1%  |

受講者の地域別構成は、石狩支庁管内から16名(36.4%)、上川・留萌・宗谷・空知管内で13名(29.5%)、他6支庁管内であり、ほぼ全道域からの参加でした。

受講者の半数以上が過去に自然観察会等に参加したことがない方でしたが、研修会受講の動機が、今後ボランティア・レンジャーとしての活動意欲や興味があるからとの回答があり、道民の皆さんの自然への関心の広がりを感じます。

活動についての意向では、自然解説またはその補助が54.5%であり、日曜・休日で、ほぼいつでも(回数不問)活動可能という方がそれぞれ半数以上という結果がでており心強く感じられます。

一方、活動において重要であるボランティア・レンジャー相互の連携や情報の入手先等については、行政に期待しているところが多く、受講者の方々は活動に向かって不安等を有しているということをお聞きしています。

なお、今回の育成研修会から、北海道ボランティア・レンジャー協議会から講師をお願いしましたが、日頃の実践活動からの指導内容であったことから、多くの受講者から好評を得ていたことを報告します。ありがとうございました。

7 セミナーについての感想、要望をお聞かせください。

- ・ 木の街で勉強できて良かった。もう少し、時間に余裕が欲しかった。
- ・ 森の活用が学べた。樹木についてのテーマで良かった。(さらに、特性・用途まで内容を広げてほしい。)
- ・ 木を学習して、人間の基本が五感にあることを再確認した。
- ・ ネイチャーゲームの実践ができて良かった。
- ・ 講師のユーモアを交えた話術についても、学習した。
- ・ 講習資料の一部を事前に配布してほしい。(受講前知識を多少付けるため)
- ・ 野外実習では、班に分けるなど人数の調整をしてほしい。実習時間を多くしてほしい。
- ・ 毎年実施の場合は、開催場所を支庁を巡ってほしい。
- ・ 遠隔地の開催は不便と思っていたが、異なる場所での研修が楽しみになった。
- ・ 日帰り等にするなど、回数を多くしてほしい。(各分野別専門講座等)
- ・ 年 1~2回、または、支庁単位で年 3~4回開催してほしい。
- ・ 一般参加者のマナーについての指導方法、緊急時の対応等、危険行為等を教えてほしい。
- ・ 知識の提供中心の観察会にならないような方法を教えてほしい。
- ・ いつも啓発される。良かった、活動への意識が生まれた。
- ・ 学生など若い人への参加を呼び掛けては。もっとハードな内容で良い。
- ・ 他のボラ・レンとの交流や、先輩たちの指導も得ることができた。
- ・ 夕食後にもカリキュラムを組んでも良い。
- ・ 森の中で生活する(生計を立てる)方法を考えたい。

今回の受講者は、石狩支庁管内から14名(42.4%)、網走・十勝・釧路支庁管内で12名(36.4%)、他4支庁管内からの参加があり、会場となった津別町の特色である「木」をテーマとして実施したところ、好評でした。

受講者のうち13名(39.4%)の方が、日頃、自然解説者または補助者として活躍されているという回答があり、その主催者や活動地は種々いろいろでした。また、全く自然観察会に参加したことのない方については7名(21.2%)でした。

自然に関する知識の収集は、書物によるものが63.6%で第1位ですが、受講者の半数が、他の研修会やカルチャー教室を受講しているという結果が出ています。

ボランティア・レンジャーとして積極的に活動したいという方については48.5%の回答がありましたが、道主催の「自然教室」や「自然に親しむ集い」について道から案内を受けた方や参加した方は4割もいないという結果もでており、今後の道の開催案内や協力要請の方法等を改善したいと思います。

自然観察会の開催については、場所・季節を変えての数多い開催の要望があり、実践セミナーについても、同様な要望が高いことがうかがわれます。

また、ボランティア・レンジャーの活動拠点の設置を望む声もあり、ボランティア・レンジャーの皆さんがそれぞれの地域においてより積極的な活動ができるよう、皆さんの要望や利便等に配慮した研修会の実施や、支庁との連携の強化を図ることに努めたいと思います。

ボランティア・レンジャー実践セミナー(第期) アンケート集計結果 H6.9.18

【回答者33人 回収率100%】

1 これまでに自然観察会、探鳥会などに参加したことがありますか。

- ① ある。 26人 78.8% (昨年 1~3月13人 4~6月9人 10月2人 40回1人)  
 ② ない。 7人 21.2%

あると答えた方は、どのようなかたちで参加されましたか。

- ① 一般参加者として 13人 39.4%  
 ② 自然解説者、又は補助者として 13人 39.4%

野幌森林公園 千歳青葉公園 当別道民の森  
 大雪山自然観察講座 釧網線ふれあいの旅 美幌みどりの森  
 釧路市山花冒険広場 釧路湿原 各地の探鳥会 など

2 あなたは、普段どういう方法で自然に関する知識を身につけていますか。(複数回答)

- ① 書物によって 21人 63.6%  
 ② 他の機関が実施する研修会を受講することによって 15人 45.5%  
 ③ カルチャー教室や講習会を受講することによって 14人 42.4%  
 ④ サークル活動に参加することによって 8人 24.2%  
 ⑤ 特に何もしていない。 1人 3.0%  
 ⑥ その他 5人 15.2%

写真撮影とスケッチ、友人たちとのフィールドワーク、北海道野鳥の会札幌部

3 ボランティア・レンジャーとして協力を求められた場合

	人数 (%)	支 庁 別								
		石	後	空	上	網	胆	十	釧	
積極的に協力したい。	16 (48.5)	7	1	1	1	1	1	2	2	
都合がつけば協力したい。	17 (51.5)	7			2	4	1		3	
協力は難しい。	0									
協力できる場合										
回数	月1回程度	16 (48.5)	10		1			2	2	1
	年数回程度	11 (33.3)	2			1	5			3
	年1回程度	2 (6.1)				2				
時期	平日でも可	10 (30.3)	4				1	2	2	1
	日曜、休日	12 (36.4)	8		1		1			2
	都合次第で	10 (30.3)	1	1		3	3			2

- 4 北海道では各支庁毎に「自然教室」や「自然に親しむ集い」を開催しています。
- ・ これらの開催を知っていましたか。      はい 21人 63.6%      いいえ 12人 36.4%
  - ・ 道から案内を受けたことがありますか。      はい 12人 36.4%      いいえ 20人 60.6%
  - ・ 参加したことがありますか。      はい 13人 39.4%      いいえ 20人 60.6%

これらの開催をどのように思いますか。

- ・ もっと開催回数を増やしてほしい。いろいろな場所で数多く開催してほしい。
- ・ もっと積極的な活動をしてほしい。
- ・ 山野に親しむのは良いことだ。機会があれば、子供と一緒に参加したい。
- ・ できるだけ参加したい。
- ・ 自然の大切さ、接する方法を知るために良い。 (他、良いという意見複数)
- ・ PR不足。もっと関心をひく工夫のある広報をすべきだ。
- ・ 今後も続けてほしい。

参加した方は感想をお聞かせ下さい。

- ・ 参加したときは有意義なことだと思うが、日常は忘れてしまう。
- ・ 1日で理解することは難しく、数多く参加することを心掛けている。 自然体で理解することが大事と考えている。
- ・ 毎回のテーマが変わり、いろいろな事を勉強できる。参考になる。有意義である。等 同様意見複数
- ・ 場所をいろいろ変えてほしい。
- ・ 皆が楽しく1日を過ごしていると思う。 自分も楽しい。
- ・ 大人から子供まで、それぞれなりに勉強ができる機会である。(特に子供には感動が多い。)
- ・ 実践例が少ない。

- 5 北海道以外が主催する観察会等に参加したことがありますか。

はい 16人 48.5%      いいえ 17人 51.5%

参加した方は、どこが主催する観察会ですか。

北海道ボランティア・レンジャー協議会 同 ネット支部 北海道自然観察指導員連絡協議会  
 江別市映公園 恵庭市 黒松内町アサセンター 留萌市鶴巻館 釧路市動物館  
 支笏湖畔国民休暇村 東川町・環境庁共催大雪山自然観察館 日本野鳥の会  
 野鳥愛護会 NHK文化講座 知床センター (財)前田一步園  
 道民の森 滝野すずらん公園 エコ・ネットワーク 丸山環境教育事務所

- 6 ボランティア・レンジャーとして行政に希望したいことは何ですか。(複数回答)

- ① 活動拠点を作ってほしい。      13人 39.4%
- ② 定期的に能力向上のための演習やセミナーを開催してほしい。      23人 69.7%
- ③ メリットについて配慮してほしい。(公園施設等の割引き、保険の制度、実費支給等)      6人 18.2%
- ④ その他      1人 3.0%

# 観察会研修会 情報

◎ 「滝野の森歩く」 平成7年2月26日(日) 10:00 ~12:00

集合場所 札幌市南区 国営滝野すずらん丘陵公園溪流口駐車場

公園内の疎林広場と炊事遠足広場周辺の樹木と、樹木や白雪の上に印された動物の生活跡の様々を、歩くスキーで観察します。

下見は、2月19日(日) 10:00 ~12:00 国営滝野すずらん丘陵公園溪流口駐車場 集合で実施します。多数の参加をお願いします。



## ●滝野すずらん公園（溪流口）行きバス

	〔中央バス〕		〔市営バス〕		
行	札幌ターミナル発	8:27	9:45		
き	真駒内駅	8:54	10:12	9:05	10:17
	滝野すずらん公園着	9:25	10:43	9:35	10:47
-----					
帰	滝野すずらん公園発	13:01	14:40	14:00	15:55
り	真駒内駅	13:28	15:07	14:30	16:25
	札幌ターミナル着	13:59			

中央バス案内 TEL 231-2223

市営バス案内 TEL 581-0161

## ●歩くスキーの貸し出し

公園内の「ロッジゆきざさ」で歩くスキーの貸し出しをしています。事前に予約しておくとしスキー・靴のサイズが確保できます。

・料金 大人 520円 小人 310円

・予約、問い合わせ TEL 591-4433

## 北海道野幌森林公園事務所の主催する 自然観察会の協力

### 《冬の森の観察会》

- ・平成7年3月5日（日）9:30～14:00 集合場所 野幌森林公園大沢口
- ・下見は、平成7年3月4日（土）9:30～14:00 集合場所 野幌森林公園大沢口で行います。

〔注〕「エゾマツ」30号で、下見を 2月26日（日）としてありましたが、都合により上記の日程に変更いたします。

「滝野の森を歩く」・「野幌森林公園冬の森の観察会」についての問い合わせは、下記へお願いします。

TEL 011-875-6602 （事務局長 佐々木 幸夫宅）



# 森づくりフォーラム

## ○ 開催の目的

森林・林業の豊かな発展による国民生活実現のため、道内林業関係者、一般市民参加を得て、今後の森林管理の在り方、森林・林業の役割について、幅広く論議し、併せて、この行事を通じ、森林・林業の活性化に向けた理解と支援を呼び掛ける。

## ○ 催事内容

### ◎森林づくりフォーラム

・特別講演会 「自然と私」 講師 小野田 寛郎

・シンポジウム テーマ 「森が育む北の文化」(道内各地より5名程度)

※近年内地より来道在住し、地域で活動している人に北海道の山村、自然、森林の魅力などを語り合ってもらい、明日の北海道を築く方策を探る。

・林業写真展 森林づくりをテーマとした写真展

### ◎林業技術研究発表大会 従来通りの形態で開催

※発表形式は8部門の地域活動、林政、林業経営、造林、林産  
森林保護、森林機能保全、森林作業・林道

## ○ 開催形態・日時・場所

・森林づくりフォーラムの執行委員会により企画開催

・林業技術研究発表大会の道主催

◎開催日時…平成7年2月1日(水)10:00～2日(木)17:00

◎開催場所…札幌市教育文化会館大ホール 他会館各室 (中央区北1条西13丁目)

2月1日(1日目)		2月2日(2日目)	
10:00	15:00	9:00	17:00
○森林づくりフォーラム (実行委主催)		○林業技術研究発表大会 (道主催)	
○森林・林業をテーマとした写真展			

## ○ 主催・後援等

◎森林づくりフォーラムの森林づくりフォーラム実行委員会が主催

※実行委の構成の普及協会、道森連、木材協会、造林協会、  
森林整備公社、道緑推、林業グループ協議会  
普及職員協議会…8者

◇後援等 北海道、道内林業関係団体、報道各社

## ○ 対象人員等

・道内の林業関係者(国、道、市町村林業関係職員、林業・林産業関係者、森林組合)  
及び一般市民 ……1,200人

※ 参加希望の方は、開催当日会場へおいで下さい(事前申し込みの必要なし)

## 編集後記

1月(January)は、Janus神に由来し、この神が全てのものの始めを司ったので、一年の最初の月に冠したものと言われています。

年が改まると、誰もが希望や新たな計画を持つものです。そこで大切なことは、希望や計画に向けての具体化の行動がポイントになります。

会員の皆様も、今年一年自然とどう関わっていくかの行動計画を立てられていることでしょう。その中で、会報誌「エゾマツ」が少しでも役立つ情報の提供が出来ればと考えています。

今年も各地からの積極的な投稿を期待しています。

北海道ボランティア・レンジャー協議会  
会報誌「エゾマツ」31号 1995.1.20 発行  
発行責任者 大友 健  
(表紙題字 岡田 元北海道保健環境部長)